

(修正案 1)

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学
平成 29 年度 業務実績に関する評価報告書



平成 31 年 2 月
山陽小野田市公立大学法人評価委員会

目 次

第 1	平成 29 年度の業務実績評価について	1
1	評価に関する基本的な考え方	1
2	評価方法	1
3	年度評価における評価項目と評価基準	2
第 2	評価結果	4
1	全体評価	4
2	大項目別評価	6
参考	山陽小野田市公立大学法人評価委員会 委員名簿	12
3	事業単位・指標単位評価	13
参考資料 1	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学業務実績の 評価に関する基本的な考え方	30
参考資料 2	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の 業務実績評価実施要領	31
参考資料 3	【用語の解説】	37

第 1 平成 29 年度の業務実績評価について

山陽小野田市公立大学法人評価委員会は、「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の業務実績評価実施要領」に基づき、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学（以下「法人」という。）の平成 29 年度における業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性、自主性、自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況を踏まえ、法人の業務実績全体について総合的に行う。
- (3) 評価は、一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (5) 評価にかかる業務が法人の過度の負担とならないように留意する。
- (6) 評価の仕組みについては、必要に応じて工夫・改善を行う。

2 評価方法

評価は、法人の自己点検・評価に基づいて行うことを基本とする。業務実績評価は、「全体評価」、「大項目別評価」、「事業単位・指標単位評価」により行った。

(1) 全体評価

事業単位・指標単位評価及び大項目別評価の結果を踏まえ、法人の中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

(2) 大項目別評価

事業単位・指標単位評価の結果を踏まえ、6つの大項目（15区分）ごとに、中期計画の進捗状況について評価を行った。

(3) 事業単位・指標単位評価

年度計画に記載された事項ごと（事業単位）及び評価指標ごと（指標単位）の実施状況または達成状況を確認し、評価を行った。

3 年度評価における評価項目と評価基準

(1) 評価項目

評価区分		評価の対象、内容等	
項目別 評価	事業単位 評価	年度計画のⅠからⅥの最小項目として記載されている各事項の達成状況 ※ ⅦからⅪに係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。	
	指標単位 評価	年度計画の各数値目標の達成状況	
	大項目別 評価	事業単位評価及び指標単位評価を踏まえた、中期計画における6つの大項目（15区分）ごとの進捗状況	
		Ⅰ．教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	
1		教育に関する目標を達成するための措置	
2		学生への支援に関する目標を達成するための措置	
3		研究に関する目標を達成するための措置	
Ⅱ．地域社会との連携、地域貢献に関する目標を達成するための措置			
Ⅲ．業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置			
1		運営体制の改善に関する目標を達成するための措置	
2		教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置	
3		人事の適正化に関する目標を達成するための措置	
4		事務等の効率化、合理化に関する目標を達成するための措置	
Ⅳ．財務内容の改善に関する目標を達成するための措置			
1		自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	
2	経費の抑制に関する目標を達成するための措置		
3	資産の管理及び運用に関する目標を達成するための措置		
Ⅴ．自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置			
Ⅵ．その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置			
1	施設設備の整備、活用等に関する目標を達成するための措置		
2	安全衛生管理に関する目標を達成するための措置		
3	法令遵守及び危機管理に関する目標を達成するための措置		
全体評価		項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況	

(2) 評価基準

評価区分		評価	標語	評価の目安
項目別評価	事業単位評価	a	年度計画を上回る	上回るもしくは十分な実施
		b	年度計画を概ね実施	実施
		c	年度計画を十分に実施せず	下回るもしくは実施が不十分
		d	年度計画を大幅に下回る	特に劣るもしくは実施せず
	指標単位評価	a	年度計画を上回る	達成率 100%以上
		b	年度計画を概ね実施	達成率 80%以上 100%未満
		c	年度計画を十分に実施せず	達成率 60%以上 80%未満
		d	年度計画を大幅に下回る	達成率 60%未満
	大項目別評価	A	中期計画の進捗は順調	大項目別（15区分）に、中期計画の進捗状況について、事業単位評価及び指標単位評価から総合的に勘案し、評価
		B	中期計画の進捗は概ね順調	
		C	中期計画の進捗はやや遅れている	
		D	中期計画の進捗は遅れている	
全体評価		中期計画の進捗は順調		中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期計画の進捗は概ね順調		
		中期計画の進捗はやや遅れている		
		中期計画の進捗は遅れている		

第2 評価結果

1 全体評価

(1) 評価結果

中期計画の進捗は概ね順調である

(2) 評価理由

ア. 総括

平成 29 年度は公立化後 2 年目を迎えるとともに、中期計画に基づき平成 30 年 4 月の薬学部の開学に向けた準備が行われた。法人から提出された平成 29 年度の業務実績報告書に基づいて行った評価委員会の事業・指標単位評価においては、年度計画の全 88 項目のうちの約 99%の 87 項目が「a 評価：年度計画を上回る」又は「b 評価：年度計画を概ね実施」とされており、年度計画どおりに実施されていることが認められる。

その内訳を見てみると、「a 評価」が 54 項目で約 61%、「b 評価」が 33 項目で約 38%となっており、全体的には、中期計画の達成に向けて着実に取組が進められていると評価できる。また、大項目別評価（6 項目）のうち、「A 評価：中期計画の進捗は順調」が 1 項目、「B 評価：中期計画の進捗は概ね順調」が 5 項目であることから、年度計画を上回る取組が見受けられるものの、その取組の多くが年度計画どおりに実施されているものと判断した。

なお、年度計画における目標の設定が「～を検討する。」等、その成果を評価する上で十分理解できない項目や、年度計画に対する実施状況と実績の記述においても、評価の判断基準が不十分な項目や「～こととした。」等、記述が具体的でない項目が散見された。このことは、昨年度の評価結果においても指摘していたことであるため、年度計画の目標設定に当たっては、可能な限りその成果を判断する根拠となる目標の数値化を図り、実績の記述については年度計画に対する具体的な内容を記載するなど、第三者が十分に理解できる評価の判断根拠の明確化に一層努めることが望まれる。

しかしながら、前年度の評価と比べて、「a 評価」と「b 評価」の割合が逆転し、「a 評価」が大幅に増えている（34 項目から 54 項目し、割合が約 39%から約 61%となった。）ことから、中期計画の達成に向けて年度計画を着実に進めているものと認められ、中期計画の達成に向けた取組は、概ね順調に進められているとの評価が相当と判断した。

このような中、平成 30 年度には山口県、そして西日本の公立大学で初となる薬学部が開設することにより、大学に対する期待が高まっている。また、平成 31 年度には公立化後に入学した学生が卒業を迎え、地域社会への貢献や卒業後の社会での活躍を通して、山陽小野田市立山口東京理科大学の評価が問われる。そのため、教育・研究・社会貢献という大学の機能を最大限に高める必要があり、教育と研究の最高執行責任者である学長がリーダーシップを発揮し、教職員の意欲と能力を最大限に引き出していくことが重要である。その結果として、山陽小野田市立山口東京理科大学の評価が一層高まることを期待し、全体評価の総括とする。

イ. 今後に対する意見

昨年も同様の意見を述べたが、業務実績に対する自己評価については、市民目線に立った分かりやすさの観点が求められる。このため、曖昧な表現をできるだけなくし、数値化などにより具体的な目標設定を行い、実績についてもどのような取組をしたかを具体的に分かりやすく記述することが大切である。また、業務実績等の記載内容については、市民にも理解し易い表現・語句の使用に努めていただき、難解な語句や略式英字等の使用は極力避け、やむなく使用する場合には、注記で説明する等、分かりやすい表現を心掛けることが大切である。

また、評価委員会が適切な評価を行うためには、計画の進捗度を評価するのか、改善の成果を評価するのか、何について評価をするのかが判断しやすいよう、年度計画を策定する際には、適正な目標設定に努めることが望まれる。

表 全体評価と大項目別評価

全体 評価	大 項 目 別 評 価						評価項目数
	大項目（6区分）	評価 結果	A 中期計画の 進捗は順調	B 中期計画の 進捗は概ね 順調	C 中期計画の 進捗はやや 遅れている	D 中期計画の 進捗は遅れ ている	
中期計画の 進捗は概ね 順調	I. 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	A	○				事業評価 28 指標評価 6
	II. 地域社会との連携、地域貢献に関する措置目標を達成するための措置	B		○			事業評価 14 指標評価 2
	III. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	B		○			事業評価 21
	IV. 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	B		○			事業評価 7
	V. 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	B		○			事業評価 4
	VI. その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	B		○			事業評価 6

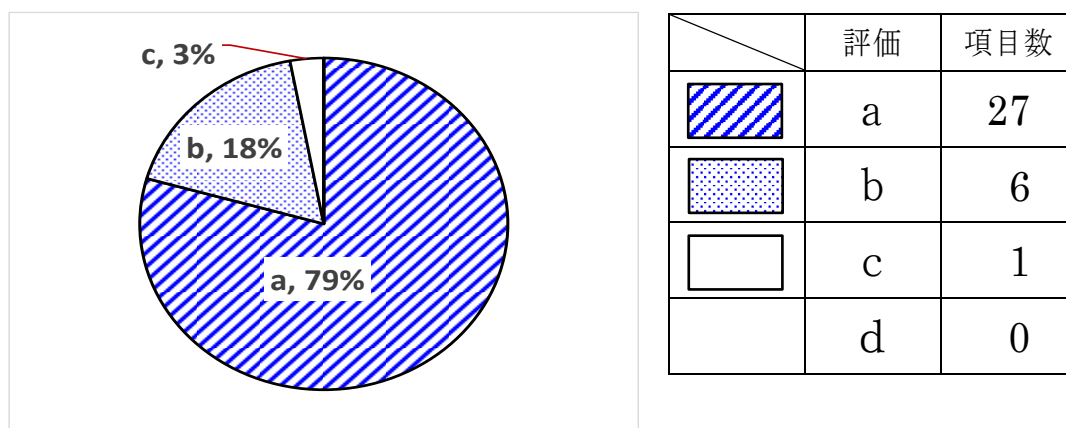
2 大項目別評価

(I) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

[No. 1 ～No.28、[1]～[6]]

評価委員会 評 価	評価の項目全体では、34 項目のうち、a 評価が 27 項目、b 評価が 6 項目、c 評価が 1 項目であり、順調な進捗状況にあると評価できる。	A (進捗は順調)
--------------	---	---------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価〔全体の項目数：34〕



★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 一般入試の志願倍率が平成 28 年度の 6.4 倍から 17.0 倍と大幅に伸びている。 [1]
- (2) 学生の健康相談、心的支援及び生活相談等を行う体制の整備を行い、きめ細かな学生への支援体制の充実を図っている。 【No.15】
- (3) 市内・県内企業の学内企業説明会の充実に努め、県内企業就職率が平成 28 年度の 26.3%から 34.0%と 7.7 ポイント上昇している。 【No.21】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

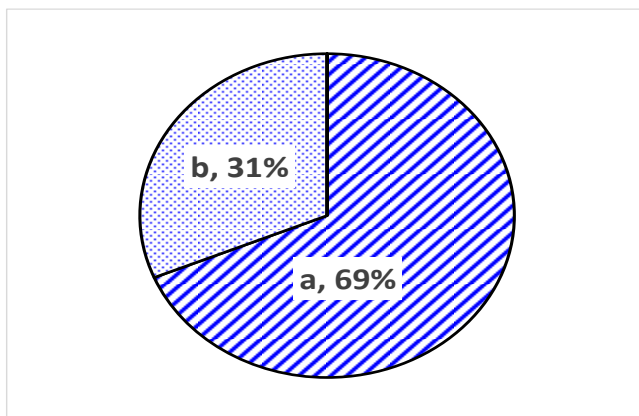
- (1) 進路決定率が平成 28 年度の 94.5%から 92.2%となり、2.3 ポイント落ちている。目標達成に向けてキャリア教育・就職支援体制の充実にしっかりと取り組むことを期待する。 [3]
- (2) 外部資金獲得額が平成 28 年度の 96,585 千円から 76,761 千円となり、約 20.5%の減 (▲19,824 千円) となっている。産学官連携、他大学や研究機関との交流を積極的に行い、研究活動の活性化を図り、外部資金の獲得の拡大が望まれる。 [5]

(Ⅱ) 地域社会との連携、地域貢献に関する目標を達成するための措置

[No.29～No.42、[7][8]]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、16 項目のうち、a 評価が 11 項目、b 評価が 5 項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	--	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価 [全体の項目数：16]



	評価	項目数
	a	11
	b	5
	c	0
	d	0

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 県内高校出身者を対象に、工学部では入学定員 200 人のうち 46 人 (23%) を、薬学部では入学定員 120 人のうち 30 人 (25%) を地域推薦の入学定員として設定している。【No.38】
- (2) 入学者に占める県内出身者率が、平成 28 年度の 20.1% から 27.0% と大幅に伸びている。[7]
- (3) 県内企業就職率が、平成 28 年度の 26.3% から 34.0% と大幅に伸びている。[8]

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

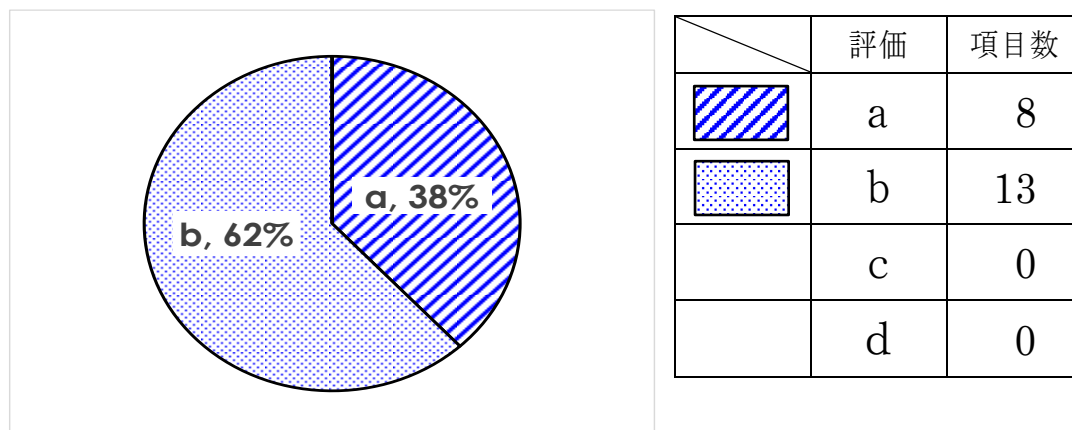
- (1) 入学者の県内出身者率及び県内企業就職率が平成 28 年度から大幅に伸びている ([7][8]) が、県内企業への訪問等の活動が平成 28 年度の 138 社から 74 社と大幅に減少している。今後も、入学者の県内出身者率及び県内企業就職率の高水準を維持するため、県内企業への訪問等の取り組み強化を期待する。【No.42】

(Ⅲ) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

[No.43～No.63]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、21 項目のうち、a 評価が 8 項目、b 評価が 13 項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	--	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価〔全体の項目数：21〕



★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 平成 29 年 4 月の薬学部開設に向けて学内の体制を整え、準備連絡会を開催し、設立団体と大学法人との連絡を密に行って、開設準備を堅実に進めている。【No.58】
- (2) 競争的研究資金である科学研究費補助金を獲得するために、科学研究費補助金の申請説明会を開催し、申請した教員には教育研究費を加算して分配することにより、科学研究補助金の教員の申請率が目標の 75%を上回って、76%を達成している。【No.59】
- (3) 事務職員の定年後の再雇用制度に関する規程を整備し、係長級以上に占める女性職員の割合が 50.0%となっている。【No.61】

▼今後に期待する事項

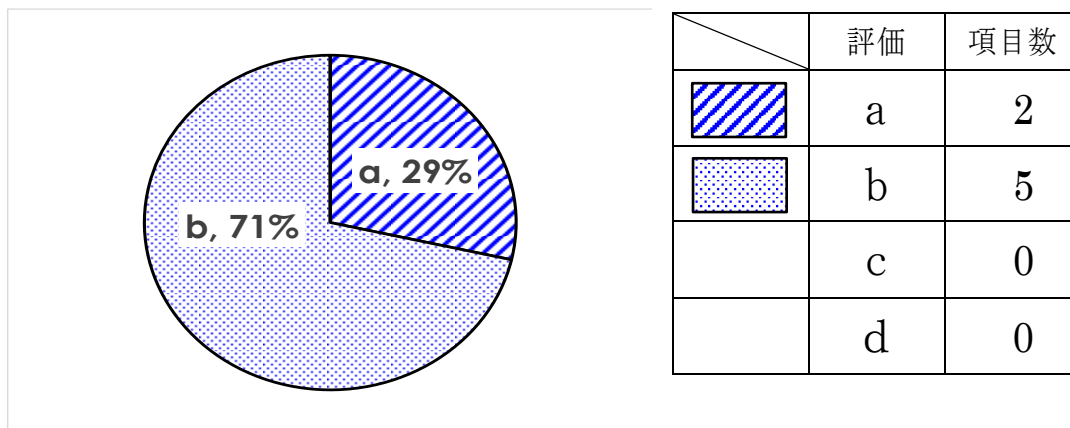
下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 教員の外部研究費獲得件数の増加や教育研究活動の活性化、教員の資質向上に資する仕組みの構築に更なる積極的な取り組みを期待する。【No.59】

(Ⅳ) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 [No.64～No.70]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、7項目のうち、a評価が2項目、b評価が5項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	---	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価 [全体の項目数：7]



★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 志願者数は、工学部が2,450人（平成28年度1,790人）、**新設薬学部**が1,448人で、両学部で**計**3,898人であった。また、入学定員の320人**に対し**330人の入学者を確保できた。このことから、**当初予算の学生納付金収入を確保している。**【No.68】

▼今後に期待する事項

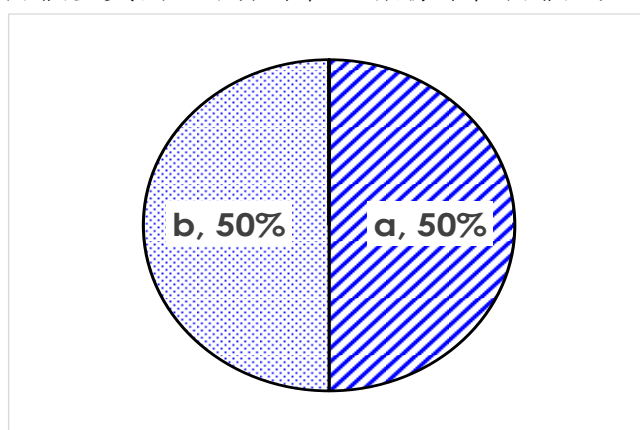
下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) **東京理科大学研究戦略・産業連携センターとの連携を更に強化して、外部資金獲得支援体制の更なる充実強化を期待する。**【No.65】
- (2) 学生・教員が安心して教育研究活動を行うことができるよう、施設及び環境の整備を今後も積極的に実施**することが望まれる。**【No.70】

(V) 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置 [No.71～No.74]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、4項目のうち、a評価が2項目、b評価が2項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	---	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価 [全体の項目数：4]



	評価	項目数
	a	2
	b	2
	c	0
	d	0

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、大学評価基準に適合していると認定されている。【No.71】

▼今後に期待する事項

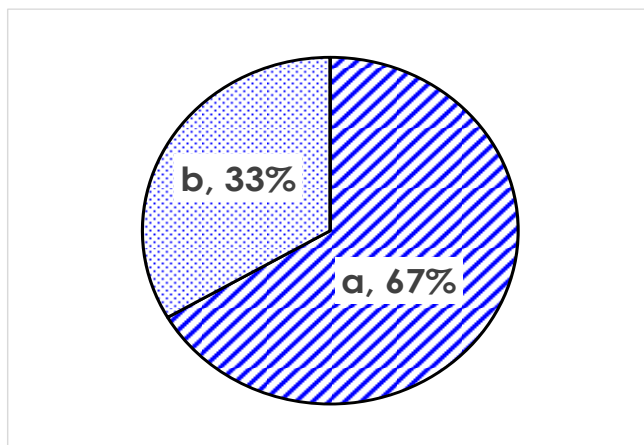
下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 日本技術者教育認定機構（J A B E E）による審査の結果を本学の自己点検・評価システムの仕組・機能が適切であるかについて、より一層の点検が望まれる。【No.73】
- (2) 自己点検評価報告書を作成し、大学のホームページに掲載し、大学の情報発信に取り組まれたが、この外に大学の各種情報についても積極的に取り組むことを期待する。【No.74】

(VI) その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 [No.75～No.80]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、6項目のうち、a評価が4項目、b評価が2項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	---	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価 [全体の項目数：6]



	評価	項目数
	a	4
	b	2
	c	0
	d	0

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) **臨床心理士**による相談を週4回、心療内科医による相談を月1回実施し、学生及び教職員の健康保全に努めている。【No.78】
- (2) 学生及び教職員を対象に、**救急講習会**を年2回開催し、AEDの設置場所を1箇所から2箇所に増設している。【No.79】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 学生、教職員、学生宿舎入居者に対する防災訓練、煙避難訓練、消火訓練を定期的に実施し、危機管理体制の整備に努めているが、異常気象が毎年のように発生する中、万一の事態に備えた体制づくりに引き続き取り組むことを期待する。【No.80】

参考 山陽小野田市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏 名	役 職 等	備考
うえの　じゅんじ 上　野　順　司	一般社団法人小野田青年会議所 直前理事長／監事	
おおもと　り　え 大　本　理　恵	株式会社山口銀行 小野田支店長	
こうだ　かたし 江　田　方　志	小野田商工会議所 副会頭	
ひらの　ゆうじ 平　野　雄　二	元 山口県病院薬剤師会 理事 元 宇部興産中央病院 薬剤部長 〔再任〕	委員長の 職務代理
やまもと　ひろやす 山　本　普　康	元 九州共立大学大学院 教授 元 新日本製鐵株式会社 主幹研究員 〔再任〕	委　員　長

任期：平成 31 年 1 月 21 日～平成 33 年 1 月 20 日